
会社名 三光産業株式会社（7922）

説明内容 平成24年3月期第2四半期決算

説明要旨

- I. 三光産業のご紹介（初めてご覧になる方へ）
- II. 平成24年3月期第2四半期決算概要
- III. 今後の展開、平成24年3月期業績予想

I. 三光産業のご紹介

◎事業目的及び沿革

当社は粘着剤付きラベル・ステッカー・ネームプレート等の特殊印刷製品の企画ならびに製造販売を事業としております。

設立当初は、家電製品や自動車、オートバイ等に使用されるラベル・ステッカーの販売商社でありましたが、日本経済が大量生産時代に入り、安価な材料に対する安定供給のニーズが高まりだしたこともあり、昭和42年に方南工場、57年に川越工場、60年に大阪工場を設立してまいりました。主に、白物家電や自動車向けラベル・ステッカーの製造を行ってまいりましたが、機械やAV機器関係へ用途を広げる中で、オーディオ用カセット、ビデオテープ、CD、DVDといったソフト関係へ展開し、国内の事業基盤を固めてまいりました。一方、顧客の海外展開に歩調を合わせ、昭和63年にマレーシア工場を、平成13年に香港に子会社光華産業有限公司を設立いたしました。また平成15年に中国深圳市に同社の生産委託工場を設置し、平成19年2月に同社の子会社として、深圳市に燦光電子(深圳)有限公司を設立いたしました。

◎当社製品の特徴

表示・取扱いラベル、CAUTIONラベルといった単純なラベルからスタートした後、FAXやコピー機のタッチパネル、テレビ・ビデオ等の表示銘板等の応用製品へ展開してまいりました。

現在では携帯電話機、デジタルカメラ等のデジタル機器向け外構部品や付属機器にまで製品範囲を拡大しております。

製品取扱い点数は約4万点、1日の取扱い品目は2,000点と多く、顧客の生産計画の変更やデュータイムの短縮に対応できるように得意先ラインに直接納入する体制を構築しております。

特殊印刷分野で、シール印刷、オフセット印刷、シルク印刷と多様な印刷方式と加工を総合的に扱えることが特徴であります。

また、粘着剤やインクを扱うため環境問題には、特に注意を払っております。このため、ISO14000の環境基準に準拠した製品作りを行っており、材料メーカーやインクメーカーと一体で環境問題に取り組んでおります。

◎経営の基本方針

当社グループはあらゆる印刷・加工技術を駆使して、装飾性の豊かさを追求することを社会的使命とし、このため素材と印刷のコンビネーションの極大値を実現する技術を蓄積すると同時に、地球環境問題を直視した経営を目標としてまいります。

上記の基本方針を実現するために、次の諸点を経営行動の指針として掲げております。

1. お客様と共に研究・開発に努め技術の蓄積を目指す。
2. 品質保証体制を確立し、多品種少量型の受注にも対応できる様生産設備の充実を目指す。
3. 営業力の向上に努め、真のマーケットリーダーを目指す。
4. 無駄な組織を排除し、効率化を追求する。

これからも環境の変化にスピーディーに対応して、お得意先からの信頼を更に高め、企業価値の最大化を目指してまいります。

◎当期のトピックス

2011年4月以降 LED照明用「放熱シート」の受注増。

2011年9月 3D/レンヂキュラーの販売開始

Ⅱ.平成 24 年 3 月期第 2 四半期(累計)決算概要

◎ 損益計算書の概要 (連結)

(単位：百万円)

	10/9 第2四半期(累計)		11/9 第2四半期(累計)		12/3 期《予想》	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
売上高	4,924	100.0	4,078	100.0	8,400	100.0
AV 機器関連	(1,169)	(23.7)	(876)	(21.5)	(1,800)	(21.4)
OA 機器関連	(1,961)	(39.8)	(1,581)	(38.8)	(3,300)	(39.3)
その他電気機器関連	(1,102)	(22.4)	(1,017)	(24.9)	(2,100)	(25.0)
輸送用機器関連	(362)	(7.4)	(301)	(7.4)	(600)	(7.1)
その他	(328)	(6.7)	(301)	(7.4)	(600)	(7.1)
売上総利益	896	18.2	734	18.0	1,500	17.9
営業利益又は営業損失(△)	22	0.5	△119	△2.9	△180	△2.1
経常利益又は経常損失(△)	22	0.4	△107	△2.6	△180	△2.1
四半期純損失(△)	△72	△1.5	△147	△3.6	△200	△2.4

2011 年 9 月第 2 四半期の業績に関しましては、前年同期と比べ減収となり、コスト削減に取り組んだものの、これを吸収しきれず、また有価証券評価損等による特別損失の計上等もあり、遺憾ながら最終赤字の結果となりました。

○ 売上高に関しましては、大震災や円高の影響による国内大手メーカーの海外移転の影響を受け、AV 機器関連業種及び OA 機器関連業種の受注量が減少し、売上高は 4,078 百万円（前年同期比 82.8%）と減少いたしました。

- ・AV 機器関連は、大震災や円高の影響により取引先の減産や海外への生産移管が進み、売上高 876 百万円（前年同期比 74.9%）と減少いたしました。
- ・OA 機器関連は、携帯電話の旧機種が生産終了や大震災の影響による生産調整等により、売上高 1,581 百万円（前年同期比 80.6%）と減少いたしました。
- ・その他電気機器関連においては、LED 照明用「放熱シート」の売上高の増加はあったものの、コンピュータ用ラベル等の受注量の減少により、売上高 1,017 百万円（前年同期比 92.3%）と減少いたしました。
- ・輸送用機器関連は大震災の影響により取引先の生産調整により受注量が減少し、売上高は 301 百万円（前年同期比 83.1%）と減少いたしました。
- ・その他の業種は、主としてアミューズメント関連の受注減により、売上高 301 百万円（前年同期比 91.8%）と減少いたしました。

- 売上総利益は、生産効率の向上に努めましたが、顧客企業の海外生産シフトおよび受注単価の低下により、粗利率が 0.2 ポイント悪化した結果、734 百万円（前年同期比 81.9%）となりました。
- 営業利益に関しましては、販管費は若干減少したものの売上高の減少により、売上高販管費率が悪化し、営業損失は 119 百万円（前年同期は 22 百万円の営業利益）となりました。
- 営業外では、円高による為替差損の減少により、経常損失は 107 百万円（前年同期は 22 百万円の経常利益）となりました。
- 特別損失については、保有投資有価証券の株価下落により投資有価証券評価損 32 百万円を計上したため、最終的な四半期純損失は 147 百万円（前年同期は 72 百万円の四半期純損失）となりました。

◎ 貸借対照表の概要（連結）

（単位：百万円）

	10/9 第 2 四半期末	11/9 第 2 四半期末	11/3 期末
流動資産	(7,505)	(6,834)	(7,217)
現金及び預金	3,065	3,094	3,265
売上債権	3,134	2,627	2,854
棚卸資産	1,015	953	812
その他流動資産	291	158	285
固定資産	(4,383)	(4,441)	(4,312)
資産合計	(11,888)	(11,276)	(11,530)
流動負債	(2,260)	(1,976)	(2,005)
買入債務	1,808	1,568	1,545
その他流動負債	452	408	459
固定負債	(597)	(567)	(579)
退職給付引当金	470	436	440
その他固定負債	127	130	138
負債合計	(2,857)	(2,544)	(2,584)
株主資本	(9,163)	(8,955)	(9,146)
評価・換算差額等	(△374)	(△464)	(△439)
少数株主持分	(241)	(241)	(239)
純資産合計	(9,030)	(8,731)	(8,946)
負債・純資産合計	(11,888)	(11,276)	(11,530)

2011年9月第2四半期末における財政状態は次のとおりであります。

- 当第2四半期末における流動資産の残高は6,834百万円（前期末7,217百万円）となり、382百万円減少いたしました。棚卸資産が141百万円増加しましたが、現金及び預金が170百万円、受取手形及び売掛金の回収により売上債権が226百万円減少したこと等によるものであります。
- 当第2四半期末における固定資産の残高は4,441百万円（前期末4,312百万円）となり、128百万円増加いたしました。これは主に保険積立金の増加等による投資その他資産の増加238百万円によるものであります。
- 当第2四半期末における負債の残高は2,544百万円（前期末2,584百万円）となり、39百万円減少いたしました。これは主に未払金等その他の流動負債が50百万円減少したこと等によるものであります。なお、買入債務額が売上債権額に比し低水準となっておりますのは、支払における現金の比率が40%と高いことが原因であります。
- 当第2四半期末における純資産の合計は8,731百万円（前期末8,946百万円）となり、214百万円減少いたしました。これは、主に四半期純損失の計上及び配当金の支払によるものであります。

◎ キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	10/9 第2四半期 （累計）	11/9 第2四半期 （累計）	11/3 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	290	98	625
投資活動によるキャッシュ・フロー	△346	296	△419
財務活動によるキャッシュ・フロー	△101	△47	△113
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	0	△55
現金及び現金同等物の増加額（△減少額）	△174	347	36
現金及び現金同等物の期首残高	2,763	2,799	2,763
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	2,588	3,146	2,799

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べ174百万円減少し、当第2四半期末には2,588百万円となりました。

当第2四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

○ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は98百万円（前年同期比191百万円減）となりました。主な増加要因は、売上債権の減少額224百万円、減価償却費119百万円等であり、主な減少要因は、第2四半期累計期間の税金当調整前四半期純損失138百万円、たな卸資産の増加額138百万円等によるものであります。

○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は296百万円（同643百万円増）となりました。これは主に投資有価証券の取得による支出114百万円のほか、保険積立金の積立による支出200百万円等の減少要因がありましたが、定期預金の払戻しによる収入516百万円、有価証券の償還による収入100百万円等の増加要因によるものであります。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は47百万円（同53百万円減）となりました。これは主に短期借入金の返済による支出3百万円（純額）のほか、親会社による配当金の支払が43百万円発生したことによるものであります。

◎ 生産拠点（連結）

	印刷方式	生産実績(百万円)		11/9 第 2 四半期 (累計) 投資額(百万円)
		10/9 第 2 四半期 (累計)	11/9 第 2 四半期 (累計)	
方南工場	シール主体	180	185	2
千曲川工場	輪転機主体	180	147	—
川越工場	オフセット主体	287	274	—
大阪工場	シール・シルク主体	287	219	0
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	250	271	0
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	508	406	5
三光プリンティング	シール主体	108	88	—
	合計	1,800	1,590	8

○ 印刷方式

シール印刷は、色数が少ない、寸法が小さい、数量が少ないラベル関係の印刷が中心となります。シール印刷は方南工場を中核工場とし、千曲川工場、マレーシア工場、中国深圳工場等に大型機を設置しております。

シルク印刷は、テレビ、ビデオ、DVD 等の表示部等の印刷をしております。

オフセット印刷は、シール印刷よりも寸法、ロット、色数が大きいラベル関係の印刷を行っております。

○ 生産実績

2011 年 9 月第 2 四半期の自社工場生産額は、総生産額 1,590 百万円で売上高に対する生産比率は 39.0%でありました。

○ 投資額

投資額につきましては上期工場全体で 8 百万円であります。

Ⅲ.今後の展開・平成24年3月期業績予想

◎ 今後の展開

[短期トレンド]

当社グループを取り巻く経営環境は、先の東日本大震災と原発事故の影響に加え、さらに欧米の財政不安や円高の進行による得意先メーカーの海外生産移管により、国内受注の減少が引き続き予想されるとともに、中国、マレーシアを中心とする海外拠点においても、受注単価の低価等、厳しい状況で推移するものと思われます。

このような状況のもと、国内においては、一般シール・ラベルの受注減は当面避けられないと考え、ガラス製品を中心としたタッチパネル関連商品を当面は収益の柱として期待し、積極的な営業展開をいたしました。東日本大震災の影響及び台湾、韓国メーカーとの競合により、当初見込みを大幅に下回る結果となりました。しかし、下期に向けてタイの洪水等の不安材料はありますが、スマートフォン、デジカメ、タブレットPC等、ガラス加工製品を中心に受注増が見込まれますので、この分野へ経営資源を投入し、受注の拡大を図ってまいります。

また、得意先メーカーの海外生産移管による一般シール・ラベルの国内受注の減少を、中国、マレーシアの現地法人を中心に、とりこぼしのない様、積極的な営業展開を行い国内受注の落ち込みをカバーしてまいります。

更に、得意先メーカーからのコストダウン要請に対応するため、自社・外注、国内・海外を問わず、生産体制の見直しを行い、一段と経営効率重視の会社運営を目指して収益の拡大を図ってまいります。

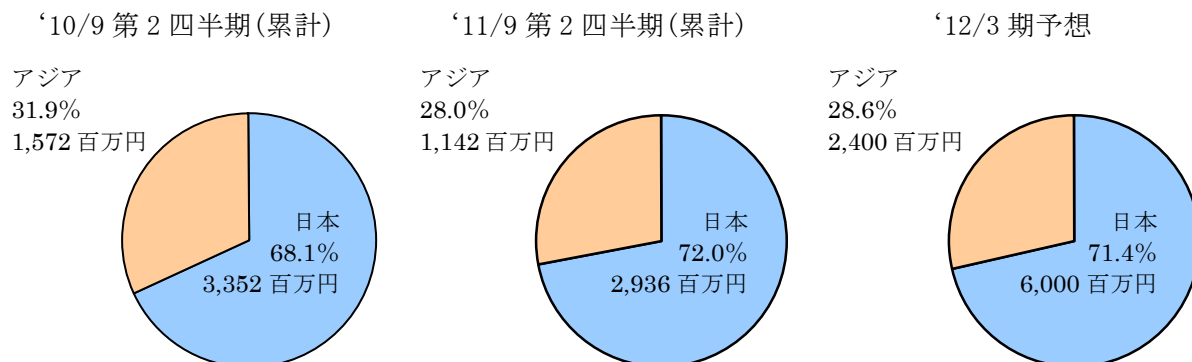
[長期トレンド]

当社グループがメインとする家電業界は、製品のライフサイクルが短期化すると共に、価格低下のスピードが早まっております。また、得意先メーカーの海外生産シフトによる部材の現地調達化の加速により国内市場の空洞化が進行しております。

この様な状況に対応する為、次のような取組みを重点的に行ってまいります。

1. 中国展開

○地域別売上



中国展開については、これまで日系家電メーカーを中心に一般シール・ラベル製品を中心に事業展開を行ってまいりましたが、一昨年度より携帯電話向けアクリル窓の量産を開始し、またAV・OA機器向けガラス製品の販売等、引き続き増加基調で推移するものと見込んでおります。

また、拡大する中国市場に対応するため、日系家電メーカーをターゲットとして、蘇州に新たな営業所等の開設を検討してまいります。

2. タッチパネルビジネスの拡大

- ・携帯電話機のアクリル窓の他、家電向け外観部品など手掛けておりますが、今後は扱い品目の多様化と顧客層の拡大を図って参ります。
- ・技術面においては、切削、蒸着、成型、スタンピング等の技術が必要ですので、専門の外注先の組織化を進めて参ります。
- ・製品加工自体は個別対応を要するので、ユーザー毎のニーズにあった外注先を確保しつつ、付加価値向上のため一部内製化を図って参ります。



その一端として、最近では、家電業界の中にもアクリルに代わってガラスを使用する動きが出てきており、当社でもガラス加工技術と印刷技術の融合を1つのテーマとして取り組んだ結果、家電メーカーのDVDレコーダーの前面パネルとして製品化を実現いたしました。また、最近では携帯用音楽プレーヤーの前面窓、デジタルカメラ用窓等AV・OA機器にも採用されており、特にスマートフォン向けパネルについては、下期に向け受注の拡大を見込んでおります。

3. 国内新市場の開拓

- ・国内需要が見込めるその他の業種のうち、医療、アミューズメント、玩具景品等の分野については、受注方式を維持しつつ、当社オリジナル企画機能も組み込んで付加価値向上を目指してまいります。

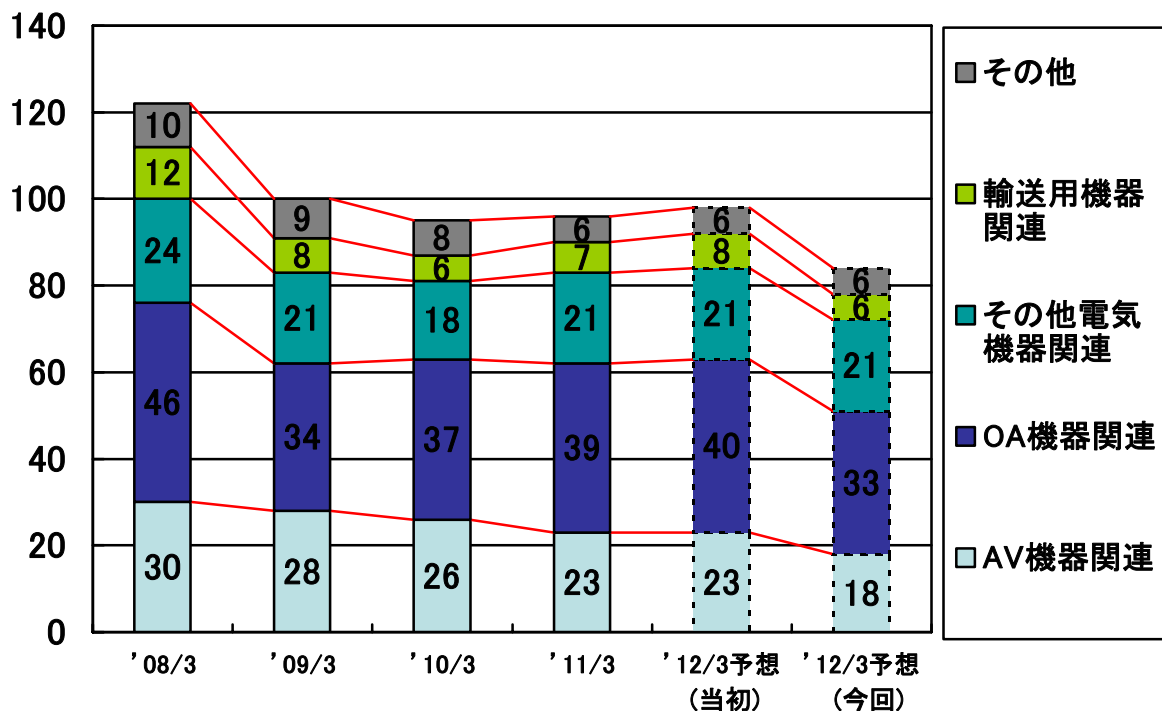


- ・医療分野につきましては今後とも医療機器メーカー、専門商社等を対象として、営業活動に注力いたします。
- ・非接触ICカード用の「きせかえシート」及び「3D／レンチキュラー」がバラエティグッズとして、今後も好調に推移するものと見込んでおります。

◎ 平成 24 年 3 月期の業績予想について（連結）

業種別売上高の推移（連結・通期）

（単位：億円）



当社グループの今後の取組みといたしましては、既述の長期経営戦略を基本としつつ、加えてローコスト体制の確立により、一段と経営効率重視の会社運営を目指してまいります。

中国展開におきましては、燦光電子（深圳）有限公司を中国における製造拠点として生産能力の強化と技術力の向上を図り、収益の拡大を目指してまいります。

また、国内市場においては、今後とも国内電機メーカーの海外生産シフトは続き市場の縮小が予想されますが、当面タッチパネル関連製品を収益の柱とし、この分野へ注力することで収益の落ち込みをカバーしてまいります。

通期の業績見通しにつきましては、当初売上高 9,800 百万円を見込んでおりましたが、東日本大震災等の影響により取引先の生産調整や海外への生産シフトが進み、AV及びOA機器関連を中心に売上高は当初予想を大幅に下回る結果となりました。

上期の実績を踏え、更に今後欧米の財政不安による円高・株安の進行やタイの洪水による影響も懸念されるため、連結売上高 8,400 百万円、経常損失 180 百万円、当期純損失 200 百万円を見込んでおります。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後、様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

以上

以下の様に本レポートの訂正を行っております。

2011年12月15日 初版

2012年2月29日 訂正

正誤表

正	誤																																																
<p>3 ページ目</p> <p>II.平成24年3月期第2四半期(累計)決算概要</p> <p>◎ 損益計算書の概要 (連結)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">12/3期《予想》</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">金額</th> <th style="text-align: center;">構成比(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">8,400</td> <td style="text-align: center;">100.0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(1,800)</td> <td style="text-align: center;">(21.4)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(3,300)</td> <td style="text-align: center;">(39.3)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(2,100)</td> <td style="text-align: center;">(25.0)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(600)</td> <td style="text-align: center;">(7.1)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(600)</td> <td style="text-align: center;">(7.1)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>1,500</u></td> <td style="text-align: center;"><u>17.9</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">△180</td> <td style="text-align: center;">△2.1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">△180</td> <td style="text-align: center;">△2.1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">△200</td> <td style="text-align: center;">△2.4</td> </tr> </tbody> </table>	12/3期《予想》		金額	構成比(%)	8,400	100.0	(1,800)	(21.4)	(3,300)	(39.3)	(2,100)	(25.0)	(600)	(7.1)	(600)	(7.1)	<u>1,500</u>	<u>17.9</u>	△180	△2.1	△180	△2.1	△200	△2.4	<p>3 ページ目</p> <p>II.平成23年3月期第2四半期(累計)決算概要</p> <p>◎ 損益計算書の概要 (連結)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">12/3期《予想》</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">金額</th> <th style="text-align: center;">構成比(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">8,400</td> <td style="text-align: center;">100.0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(1,800)</td> <td style="text-align: center;">(21.4)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(3,300)</td> <td style="text-align: center;">(39.3)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(2,100)</td> <td style="text-align: center;">(25.0)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(600)</td> <td style="text-align: center;">(7.1)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(600)</td> <td style="text-align: center;">(7.1)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>1,900</u></td> <td style="text-align: center;"><u>19.4</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">△180</td> <td style="text-align: center;">△2.1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">△180</td> <td style="text-align: center;">△2.1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">△200</td> <td style="text-align: center;">△2.4</td> </tr> </tbody> </table>	12/3期《予想》		金額	構成比(%)	8,400	100.0	(1,800)	(21.4)	(3,300)	(39.3)	(2,100)	(25.0)	(600)	(7.1)	(600)	(7.1)	<u>1,900</u>	<u>19.4</u>	△180	△2.1	△180	△2.1	△200	△2.4
12/3期《予想》																																																	
金額	構成比(%)																																																
8,400	100.0																																																
(1,800)	(21.4)																																																
(3,300)	(39.3)																																																
(2,100)	(25.0)																																																
(600)	(7.1)																																																
(600)	(7.1)																																																
<u>1,500</u>	<u>17.9</u>																																																
△180	△2.1																																																
△180	△2.1																																																
△200	△2.4																																																
12/3期《予想》																																																	
金額	構成比(%)																																																
8,400	100.0																																																
(1,800)	(21.4)																																																
(3,300)	(39.3)																																																
(2,100)	(25.0)																																																
(600)	(7.1)																																																
(600)	(7.1)																																																
<u>1,900</u>	<u>19.4</u>																																																
△180	△2.1																																																
△180	△2.1																																																
△200	△2.4																																																